



©ai ueda

## 神は我々に乗り越えられない試練は お与えにならない

指揮者 やま した かず ふみ  
山 下 一 史

千葉交響楽団音楽監督  
愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者  
東京藝術大学音楽学部指揮科教授

### 東日本大震災と仙台フィル、けせん第九

前回この欄に寄稿したのは2007年だそうで、それから18年の歳月が流れたことになる。その間実に様々なことがあった。前年の2006年に仙台フィルの指揮者に就任し、2009年からは正指揮者の任にあったが、2011年3月11日に東日本大震災が起きる。その日は公演当日で、ゲネプロ開始14分前に今まで経験したことのない大きな揺れに立ってられないほどだった。情報が遮断されて、沿岸部で起きた津波の被害を知るのは、夕方ホテルに辿り着いた後だった。

すぐに大船渡の合唱団のことを心配した。震災前の2009年1月、新しく建てられた大船渡の「リアスホール」で地元の合唱団と仙台フィルによる「第九」のコンサートを指揮した。2年後の11年1月に2回目の演奏会を共演し、その2カ月後に震災に襲われたのだ。仙台フィルも活動停止に追い込まれたが、震災の1カ月後、自家用車に米や缶詰などを詰め込んで路面が波打つ東北道を仙台に向かい、常磐木学園のシュトラウスホールでの公演を指揮したことも忘れがたい。

公共交通機関が不通であるにも拘わらず集まってくださったお客様と共に「ふるさと」を演奏して、舞台も客席も共に涙した。それ以来「ふるさと」は、僕にとって特別な曲となった。その年の12月、オーケストラと大船渡を訪れた。震災の爪痕がまだ大きく残り、風景が一変してしまっていることに驚愕した。コンサートはまさに「祈りの会」となった。佐藤賢太郎さん作曲の「前へ」を歌う高校生の姿に皆が涙した。2年後の2013年12月、「けせん第九」は復活した。その頃すでに仙台フィルを離れていた僕は、呼び戻されて指揮台に立った。僕にとって大船渡の合唱団は、仕事を超えた特別な存在となった。

### 新型コロナウイルス感染症と千葉交響楽団

震災から10年も経たない2020年、我々は新型コロナウイルス感染症のパンデミックに見舞われる。震災の被害は甚大だったが、地域が限定されていた。そのた

め、アンサンブル金沢を始め日本中のオーケストラから救いの手が差し伸べられたことは大変ありがたいことであった。しかし感染症のパンデミック下では、我々の業界は「不要不急の存在」と位置づけられて、世界中の舞台活動が停止してしまっただけで、それに伴う経済的、精神的なダメージは、ある意味でより深刻だったといえるかもしれない。

2016年に千葉交響楽団の音楽監督に就任していた僕は、当時就任から4年目を迎え、メンバーと事務局の奮闘もあって、次第にお客様から良い評価をいただけるようになっていた。それに伴って観客の動員数も徐々に増えて、人気のニューイヤーコンサートなどは完売になるほどだった。それを踏まえて、事務局と共にオーケストラの将来についての展望を、県の担当者と共に前向きに話し合っている最中だった。

それがコロナ渦で一変した。県もコロナ関連の支出がかさみ、当初の目論見が崩れてきてしまった。今現在、お客様も完全に戻っているとは言い難く、悩みは尽きない。そんな中、パンデミック直前の2020年1月に「千葉響を応援する会」が発足したことは、何にも増して喜ばしく感謝の念に堪えない。会主催の「サロンコンサート」では、メンバーの機知に富んだプログラムによる演奏と、その後の会員諸氏との歓談の時間も和気藹々として、温かい交流の場となっている。

来年2026年、千葉交響楽団との契約の2クール目が終わるが、道半ば、オーケストラ連盟の正会員昇格を目指して、メンバー、事務局、そして応援して下さる方々と共にもう少し頑張ってみようと思う。

師であるヘルベルト・フォン・カラヤンの助言を思い出す。「自分のオーケストラを持ち、そのオーケストラと集中して仕事に取り組みなさい」。音楽以外の悩みも多く、ポジションを持つというリスクも感じながらも、積極的に関わっていけるオーケストラを持つ指揮者としての「充実感」も、大いに感じているところである。

## 2024年度の公演活動（競輪補助事業）について

### 巡回公演

2024年度最初の巡回公演は6月に福井県鯖江市で行った。3月に北陸新幹線が敦賀まで延伸して間もなくの演奏会であった。マティアス・パーメルト指揮の大阪フィルハーモニー交響楽団は、チャイコフスキーの交響曲第5番ほかを演奏。圧巻は地元出身のソプラノ吉田珠代さんの歌声であった。日本を代表するオペラ歌手はヴェルディやプッチーニの曲を歌いあげた。公演終了後、吉田さんの楽屋には小中学校時代の恩師や友人が何人も訪れ、アットホームな雰囲気包まれていた（4頁参照）。

福島県会津若松市の演奏会は、會津風雅堂開館30周年を記念して行ったものである。同地での開催は2019年の市制120周年記念公演以来5年ぶりであった。熊倉優さん（32歳）指揮の読売日本交響楽団が、郡山出身の山崎亮汰さん（26歳）とモーツァルトのピアノ協奏曲第23番を演奏した。

水戸の演奏会ではシベリウスを特集した。浮ヶ谷孝夫さん指揮の東京21世紀管弦楽団が交響曲第2番などを演奏するとともに、ヴァイオリン協奏曲を周防亮介さんと協演した。楽器演奏クリニックはひたちなか市の勝田高校で行った。

山口県周南市で行った巡回公演には広島交響楽団が登場し、指揮と独奏を三浦文彰さんが担当した。演目はメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲とブラームスの交響曲第1番。この2曲が名曲であることを再認識させた演奏であった。周南では楽器演奏クリニックに加えて、市民向けの音楽講座も行った。

長野県岡谷市での演奏会は出口大地さんが前年につづき新日本フィルハーモニー交響楽団を指揮し、高木竜馬さんとグリーグのピアノ協奏曲を演奏した。2018年9月のエドヴァルド・グリーグ国際ピアノコンクールで優勝した高木さんの演奏は、その実力を改めて聴衆に印象づけた。

新潟県上越市で行ったコンサートには、シエナ・ウインド・オーケストラが登場した。指揮は青島広志さんとオリタノボッタさん。吹奏楽の名曲の多くを地元や上越教育大学の吹奏楽団と演奏したほか、楽器演奏クリニックも行った。

茨城県日立市の演奏会には、大井剛史さん指揮の東京交響楽団が登場し、ピアノの細川千尋さんとガーシュウインの「ラブソディ・イン・ブルー」を演奏した。日立では毎回テーマを変えてプログラムを組んでいる

が（映画音楽やクリスマスの音楽など）、今回はミュージカルの名曲を特集した。

三重県四日市公演は、愛知室内オーケストラ初の巡回公演登場となった。指揮は山下一史さんで、成田達輝さんとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏した。成田さんの「メンコン」も名曲の素晴らしさを実感させた名演であった。

四日市と同日開催となった奈良県大和高田公演は、大井剛史さん指揮の大阪交響楽団に、ピアノの石井琢磨さんとサクソフォンの上野耕平さんが協演し、それぞれガーシュウインの「ラブソディ・イン・ブルー」と酒井格の「シーサス・クロッシング」を演奏した。

静岡県伊豆公演（会場は伊豆の国市）は、伊豆市の市制20周年を記念して、ピアノの務川慧悟さんとヴァイオリンの三浦文彰さんが登場する豪華なコンサートとなった。梅田俊明さん指揮の東京交響楽団とともに、グリーグのピアノ協奏曲とメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏した（6頁参照）。

長崎県五島市での演奏会は、市制施行20周年記念事業の一環として開催された。五島での開催は10年ぶり、渡邊一正さん指揮の九州交響楽団がモーツァルトの交響曲第41番「ジュピター」ほかを演奏した。楽器演奏クリニックは昼食をはさんで5時間にも及んだ。熱心な練習風景はNHKや民放のローカルニュースで紹介された。

2024.12.21 長野第九



12月の長野第九には、飯森範親さん指揮のパシフィックフィルハーモニア東京（PPT、旧東京ニューシティ管弦楽団）が出演した。PPTに改称して初の巡回公演であったが、地元合唱団と息の合った演奏を見せた。長野での演奏会には同県出身の若手演奏家が毎回ソリストとして出演しており、今回はユーフォニアムの宮島優哉さん（30歳）が登場。この日のためにオーケストラ版に編曲したスパークのユーフォニアム協奏曲第1番を披露した。

### アマチュアオーケストラ演奏会

七夕の日実施したオペラ東京管弦楽団によるモーツァルトの歌劇「魔笛」（全2幕）レクチャーコンサートは、かつてない試みであった。子どもを主な対象としたため、会場は小学生とその保護者でいっぱいになった。子どもたちは字幕付原語上演にもかかわらず、はじめてのオペラに見入り、ときに声をあげて笑っていた。まさしく「青少年の健やかな成長を育む」演奏会となった。

2022年夏にベートーヴェンの「運命」と映画音楽で初登場した戸塚区民オーケストラは、ベートーヴェンの「田園」などを演奏した。今回も多くの方に音楽を楽しんでもらうため、乳幼児の入場を制限しなかった。

プランタン管弦楽団のベートーヴェンの第九演奏会は、楽団自体の演奏、合唱団と独唱者の歌声を見事にまとめあげていた。第九の演奏は前年もフィルハーモニア・ウィーン名古屋が行っており、愛知県や名古屋市のアマオケ活動の充実ぶりを印象づけた。

びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団は、ブルックナーの交響曲第5番を演奏した。ブルックナーの交響曲は長大で初心者には難解なことから、巡回公演ではとりあげてこなかった。しかし、アマオケのなかには特定の作曲家や楽団、指揮者などを深く愛する人も多く、今回実施することとした。ブルックナー生誕200周年に花を添える形となった（5頁参照）。

西東京ジュニア・ユースオーケストラの演奏会では毎回、青少年を独奏者に迎えてさまざまな協奏曲を演奏し、若い演奏家を育成している。今回は中高大生がハイドン（チェロ）やモーツァルト（ピアノ）、ベートーヴェン（ヴァイオリン）協奏曲を披露した。



### 特別支援学校等訪問演奏会

特別支援学校オーケストラコンサートは5月～6月、金沢、七尾、小松で実施した。指揮は松井慶太さん、演奏はオーケストラ・アンサンブル金沢。元日に発生した能登半島地震の影響で、穴水や輪島、七尾などでの開催はできないと諦めていたが、5月に入って「音楽ホールではムリだが、七尾特別支援学校なら公演できる」と連絡があり、急遽七尾でのコンサートを追加した。体育館での開催となったが、子どもたちはオーケストラの生演奏を心から楽しむことができた。

今回はじめて高齢者施設での演奏会を8月に実施した。愛媛県新居浜市の高齢者施設での瀬戸フィルハーモニー交響楽団の奏者8名と歌手2名（ソプラノとバリトン）によるコンサートである。クラシックの名曲から唱歌、流行曲までカバーし、大喝采を浴びた。

2月には当財団の演奏会初出演となった東京混声合唱団（8名+ピアノ）が、千葉県佐倉市の高齢者施設と船橋市の中野木小学校で歌声を披露した。世代に合わせた楽曲を選択した結果、東混メンバーが発する合唱の美しさ、大きさにみな感激していた。

以上が2024年度の活動概要である。詳細は当財団のホームページ（HP）を参照。なお、HPには「財団ニュース」71号（2020年3月発行）以降のバックナンバーを収載しているので、こちらもぜひご覧いただきたい。

(<https://www.symphony.or.jp>)

### 2024年度 青少年の健やかな成長を育む活動 補助事業 (公益財団法人JKA 競輪公益資金補助事業)

[巡回公演] [https://www.symphony.or.jp/i\\_annai\\_2024\\_001.html](https://www.symphony.or.jp/i_annai_2024_001.html)

福井県 鯖江市*	6/8 指揮	大阪フィルハーモニー交響楽団 マティアス・バーメルト ソプラノ 吉田 珠代
福島県 会津若松市	7/26 指揮	読売日本交響楽団 熊倉 優、ピアノ 山崎 亮汰
茨城県 水戸市**	10/5 指揮	東京 21 世紀管弦楽団 浮ヶ谷 孝夫、ヴァイオリン 周防 亮介
山口県 周南市*	10/6 指揮と	広島交響楽団 ヴァイオリン 三浦 文彰
長野県 岡谷市*	10/6 指揮	新日本フィルハーモニー交響楽団 出口 大地、ピアノ 高木 竜馬
新潟県 上越市※	10/13 指揮	シエナ・ウインド・オーケストラ 青島 広志、オリタノボッタ
茨城県 日立市	10/19 指揮	東京交響楽団 大井 剛史、ピアノ 細川 千尋
三重県 四日市市	11/4 指揮	愛知室内オーケストラ 山下一史、ヴァイオリン 成田 達輝
奈良県 大和高田市	11/4 指揮	大阪交響楽団 大井 剛史、ピアノ 石井 琢磨 サクソフォン 上野 耕平
静岡県 伊豆の国市	11/17 指揮	東京交響楽団 梅田俊明、ピアノ 務川 慧悟 ヴァイオリン 三浦 文彰
長崎県 五島市*	12/14 指揮	九州交響楽団 渡邊 一正
長野市	12/21 指揮	パシフィックフィルハーモニア東京 飯森 範親、ユーフォニアム 宮島 優哉 ソプラノ 安井 陽子 メゾソプラノ 向野 由美子、テノール 渡辺 康 バリトン 近藤 圭、合唱 ながの第九合唱団

\*楽器クリニック実施 \*\*ひたちなか市で実施  
※会館主催で実施

[アマチュアオーケストラの演奏活動]

[https://www.symphony.or.jp/iv\\_annai\\_2024\\_001.html](https://www.symphony.or.jp/iv_annai_2024_001.html)

東京都 文京区	7/7 指揮	オペラ東京管弦楽団 米津 俊広
神奈川県 鎌倉市	7/13 指揮	戸塚区民オーケストラ 井崎 正浩
愛知県 名古屋市	9/8 指揮	プランタン管弦楽団 中村 暢宏、ソプラノ 金原 聡子、 アルト 大田 亮子、テノール 平尾 憲嗣、 バリトン 重左 竜二、合唱 名響グループ
滋賀県 栗東市	9/15 指揮	びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団 宅間 司
東京都 西東京市	1/26 指揮	西東京ジュニア・ユースオーケストラ 宮澤 等、青少年ソリスト3名

### 2024年度 特別支援学校等訪問演奏会

(日本交響楽振興財団自主事業)

[https://www.symphony.or.jp/viii\\_annai\\_2024.html](https://www.symphony.or.jp/viii_annai_2024.html)

オーケストラ・アンサンブル金沢、指揮 松井 慶太		
石川県 金沢市	5/28 参加校	石川県立音楽堂 県立明和特別支援学校、県立いしかわ特別支援学校、県立ろう学校、県立もう学校、金沢大学附属特別支援学校
石川県 七尾市	6/6 参加校	石川県立七尾特別支援学校体育館 県立七尾特別支援学校
石川県 小松市	6/7 参加校	小松市民センター 県立錦城特別支援学校、県立小松特別支援学校、県立小松瀬領特別支援学校
瀬戸フィルハーモニー交響楽団8名、独唱：渡辺 里香、河口 教昌		
愛媛県 新居浜市	8/27 8/28	プラチナガーデン（高齢者施設） はびねすケアセンター（高齢者施設）
広島交響楽団 染谷 春菜（お話とチェロ）、ピアノ 戸根 美穂		
山口県 周南市	9/23	周南市民会館内（市民音楽講座） *巡回公演前のレクチャー講座
東京混声合唱団8名、ピアノ1名		
千葉県 佐倉市	2/13	佐倉白翠園（高齢者施設）
船橋市	2/18	船橋市立中野木小学校

## うる まち 美わしの市 鯖江

理事長 ひろ べ とも のり  
廣 比 知 徳

特定非営利活動法人カルチャーネットさばえ

### めがね、西山公園——住みよいまち鯖江

鯖江市は福井県の中央部に位置し、北に福井市南に越前市が隣接する自然豊かな街です。人口は約7万人で、交通利便性や住宅関連の水準などを総合的に判断した「住みよさランキング」（東洋経済新報社）で毎年上位にランクインされていることからわかるように、移住を希望する方からも注目を集めています。その結果、福井県で唯一人口が増えている街でもあります。

そして鯖江といえば“めがね”。眼鏡フレームの国内シェアが9割以上を占める「めがねのまち」でもあります。他にも越前漆器や繊維産業などものづくりの街として発展してきました。

また、鯖江市でおすすめの場所といえば市の中央にある「西山公園」です。複数の日本庭園やレッサーパンダの飼育で有名な動物園がありますが、なんといつでもすり鉢状になった芝生広場の側面いっばいに植えられた約5万株のつつじは圧巻です。毎年ゴールデンウィークの時期には公園が五色に彩られて壮観の景色です。冒頭に示したまさに「美わしの市鯖江」の象徴です。

### 音楽愛好家が育てた「吹奏楽のまち鯖江」

「美わしの市鯖江」とは、1975年の市制20周年を記念して当時の小学6年生が作詞作曲をした歌のタイトルです。3番の歌詞の前半にはこう書かれています。「十の町村 集い合い 織物 眼鏡 漆器など 世界に羽ばたく我が市は」——この歌詞のようにふるさと愛の強い市民が多いと感じます。昨年11月に開催された市民音楽祭は40回の記念コンサートということもあり、最後に全員で「美わしの市鯖江」を合唱しました。

市民音楽祭は「鯖江第九を歌う会」が中心となってスタートしました。日本交響楽振興財団との共催で、1982（昭和57）年から第九演奏会を始めたことがきっかけとなり、それが1985年の市民音楽祭誕生につながりました。その後、市民音楽祭の一環として第九が演奏されるようになり、2001（平成13）年まで21回実施されました。

そうした土壤の中で、多くの音楽家や音楽愛好家が育っていきました。その結果、現在鯖江は「吹奏楽のまち」といわれています。これは当市の小中高や一般



2024.6.8 大阪フィル、指揮マティアス・パーメルト、ソプラノ吉田珠代  
（写真提供：カルチャーネットさばえ）

の吹奏楽団体が何年にもわたり活発に活動してきたからにほかなりません。言い替えば、地元で育った熱心で有能な指導者に恵まれているということです。吹奏楽以外でも音楽家が育っています。今回、日本交響楽振興財団様と共催した大阪フィルハーモニー交響楽団特別演奏会に出演した吉田珠代さんも地元の中学校出身です。

### 感動を呼んだオーケストラサウンド

前述のように、市民音楽祭での第九演奏会は2001年に終了し、その後長らく当文化センターでは本格的なプロオーケストラ演奏会は開催していませんでした。開催にはどうしても高いハードルを感じてしまいます。そのような中、日本を代表するオーケストラである大阪フィルハーモニー交響楽団と吉田珠代さんを迎える演奏会の準備に取りかかりました。周囲からは「予算的、集客的に厳しい」との声もありましたが、一流のオーケストラサウンドを近くの施設で堪能して欲しいという強い思い、そして何よりも日本交響楽振興財団様のご支援をいただくことにより、この素晴らしい演奏会を開催することができました。

聴衆の方からは、「迫力のオーケストラサウンドに感動した」「吉田さんの歌声が素晴らしかった」などのお声をたくさんいただき、開催して本当によかったと改めて感じました。今後ともこのような感動体験を「美わしの市鯖江」に届けられるよう努力してまいります。



# B A B O 誕生！

## ～重なり合い調和する調べは湖面を揺らす～

音楽監督 たく ま つかさ  
宅 間 司

びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団

### びわ湖の形が楽団誕生のきっかけ

7月1日は「びわ湖の日」です。1981年に滋賀県が制定しました。2021年の「びわ湖の日」に、「琵琶湖の形とオーストリアの国の形がそっくりだ」と、SNS上で話題になりました。東京のオーストリア政府観光局の投稿です。その後、新聞やテレビでも取り上げられ、滋賀県とオーストリアとの新たなご縁が生まれました。そうしたご縁と、オーストリアの作曲家アントン・ブルックナーの生誕200年を記念して、2024年に滋賀県栗東市で設立されたのが「びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団」(BABO)です。



### プロ・アマ混じってブルックナーの5番を演奏

旗揚げとなった9月の演奏会では、「滅多に演奏できない作品」と、ブルックナー最高傑作のひとつ交響曲第5番（原典版）を演奏することにしました。第4番「ロマンティック」や第7番と異なり、第5番は演奏時間が80分近い大作のため、演奏機会の少ない作品です。滋賀県ではおそらく初めて、ブルックナーイヤーの2024年でも、関西ではプロ・アマ通じてたった2回という貴重な機会に、私たちの演奏会が加わることとなりました。

アマオケではなかなか演奏できない曲ということで、メンバーを広く募集しました。滋賀以外にも、



2024.9.15 栗東芸術文化会館さきら (写真提供：BABO)

兵庫・大阪・京都・福井など近隣の府県から多数の応募があり、管楽器にいたっては選抜せざるをえませんでした。オーケストラの核となる弦楽器・打楽器の首席には在阪若手プロ奏者に就任いただき、音楽的な取りまとめをしてもらいました。また、長年ブルックナーを演奏しておられた朝比奈隆先生の時代を知る大阪フィルOBの先生方に助言いただき、作品への理解を深めることができました。難曲にもかかわらず、計10回とアマオケにとっては少ない練習回数でしたが、ある程度演奏水準を高めることができましたと思います。

初めての企画にもかかわらず、日本交響楽振興財団からは競輪補助事業としてご支援を賜りました。会場の栗東芸術文化会館さきらには、会場提供、演奏会の広報面で多大なサポートをいただきました。駐日オーストリア大使館観光部、オーストリア政府観光局からも快く後援いただきました。ご協力いただいた各位に改めて御礼申し上げます。

### 次の演奏曲は交響曲第4番

メジャーな作品とは言えないブルックナーの演奏会ということで、公演当日のお客様の入りを心配しておりましたが、予想以上に多くの方々にご来場いただき、ブルックナーの世界をお楽しみいただきました。「初めてブルックナーを聴いたけど、とてもよかった」という感想も多かったようです。初めてブルックナーを演奏した若いオケメンバーが、「新鮮で楽しかった」と言ってくれたのも嬉しい話でした。公演後の打上会では、ブルックナーにつきものの「エディション」(版)に関し、一部で盛り上がったのはご想像の通りです。

お客様からも、参加者からも好評をいただきましたので、次回の演奏会を2025年9月に開催し、交響曲第4番を演奏することとなりました。今後もブルックナーをはじめオーストリアの作曲家の演奏を通じて、交響楽の魅力を多くの方々に伝えていきたいと考えております。引き続き皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



## 音楽すなわち人間、という実感

むかわけいご  
務川 慧 悟

ピアニスト

2021年世界3大コンクールのひとつである、エリザベート王妃国際音楽コンクールにて第3位受賞。2019年にはフランスで最も権威のある、ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールにて第2位受賞。パリ在住。

音楽を生業とする人生はとても“人間的な”人生なのだ、ということ、少しずつだけれどやっと、心の底から分かるようになってきたと感じている。

長いことピアノを弾いてきた。幼少の頃、物心つくよりも前から、気付けばおもちゃの1つとして触れていた楽器。その後、ある時には練習しなさいと怒られながら、またある時には他のことなんて全く目に入らないほどに夢中で、この楽器に向かった。偉大な作品を前に、奏者としての自分の小ささに泣く日々もあったし、はたまた自分が生活の中でとても落ち込んだ折には、作品が、そっと自分を支えてくれるものとしてただそこにあってくれたりもした。

ともかく長くピアノと共に過ごしてきて、それが素晴らしい人生であることに、いま、何の疑いもないのだけれど、そのことをコンプレックスに感じた時期もあった。とりわけピアノ弾きの生活というのは、“ひとりである”時間が長い。そのことで、ひょっとすると自分は人として大切な何かを、取り逃がしてしまっているのではないかと、などと青春時代には考えたり……。

“本格的な”演奏活動を行うようになって、6年ほどが経ちます。もちろんその前だって人前で弾いていなかったわけではないけれど、人前に出るのが「当たり前前の日常」になるというのはやっぱりかなり特別なもので、僕にはなかなか慣れぬことだった。幼い頃から家で黙々と行ってきたことと、それを例えば2千人を前にして弾くことは（本質は同じであるべきなのかもしれないけれど）、やっぱり同じではないから。演奏が日常になることへの喜びは大いに感じながらも、同時にそのことに四苦八苦したここ数年だったかと思う。演奏がある程度多くの人の前にさらされることで、どう演奏「すべき」かということばかりが、無意識のうちに意識されてしまう。

でも、そんな苦心も伴う中で——いや、もしかすると苦心を伴うからこそ——音楽をきっかけにして、ひとと、深く心をかよわせることのできる素晴らしい瞬間を、この数年間で何度も経験しました。つまり、音楽が真に心と心を繋ぎ合わせてくれるような、素晴らしい経験だ——尊敬する仲間と共に演奏した時、時には意見を突き合わせながらも、そのぶつかりを乗り越えた末に舞台上で時に訪れる、1つの心を共有できるあの感覚。広いコンサートホールで、言葉を介していないのに、お客様と弾いている自分とが必ずや同じ何

かを共有している、と全くとって信じられる瞬間。または、200年も前に書かれた楽譜を、何度も読み、弾き、考え対峙するうちに、その作曲家の人となり——偉大さはもちろんのこと、時には彼らのとても人間的な側面も——を、自宅にいながらひとりふっと温度感を持って感じることもできたり。

そう、逆説的だけれど、言葉を使わぬ音楽というのが、人間とは何か、人とのつながりとは何か、ということについて、きっとどんな言葉で語りかけられるよりも強く教えてくれたのだ。長い年月音楽をやってきて、始めたばかりの頃はまだ、音・技術・耳・知識・精神といった1つひとつの要素があくまでも独立したものとしてあり、それらを1つひとつ学んでゆくところから始まったものが、次第にその各々が意味をもち、ひとつの大きな有機的繋がりになってきて、「音楽世界はまさに人間世界そのものの反映のように奥深い」という実感を、ようやく掴みかけている感触がいま僕には確かにある。やっとスタート地点に立てたのだ。演奏家、とりわけピアニストである自分は、人間の世界的本質を知ることができぬままなのではないか、というかつての不安も、すっかり払拭されたのだ。

なんだか廻りくどく長くなってしまったけれど。これが音楽家としての今の自分に感じる現在地。そんな今、音楽をすることがこれまで以上に嬉しくて仕方がない。これからも沢山の大好きな音楽に囲まれて、ある時には四苦八苦し、ある時にはこれ以上ない喜びを感じながらも、これまでと変わらず音楽と関わり続けてゆける生活がまだまだこの先ずっと長く待っているのだと思うと、心にはただただ良き高揚のみが、立ちのぼってくるのでした。



2024年4月 アムステルダム・コンセルトヘボウ (写真提供：務川慧悟)

# 国際的な歩みと未来 ～岩城宏之から受け継いだバトン～

とこ ほ つよし  
床 坊 剛

オーケストラ・アンサンブル金沢 ゼネラル・マネージャー



私はオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）に30年間携わり、つくづく恵まれた経験を積みさせていただいたと感じています。それは時代を築き上げてきた諸先輩方、そして4人の音楽監督のもと、オーケストラの仕事に関わることができたことです。その中でも国際舞台に立つOEKの仕事は特別なものでした。

岩城宏之氏は初代音楽監督としてOEKの礎を築き、彼が掲げた「室内オーケストラ」「国際的な活動」「現代音楽への取組み」という3つの柱は、OEKのアイデンティティとなり、今もその想いは受け継がれています。この3つの柱を掲げた背景には、岩城氏が国内外での幅広い活動を通じて、新たに生まれる日本のオーケストラに必要な要素を考慮した結果があったと思われます。OEKは1988年設立当初から「石川・金沢から世界へ」という国際的に活躍するオーケストラとしてのビジョンを持ち、国内外の演奏家からなる互いに異なる文化を尊重し、主張するオーケストラとしてスタートしました。

また、OEKは設立時から現代音楽へ積極的に取り組んでいます。1989年、初の海外公演のプログラムには一柳慧や石井眞木の邦人作曲家の作品が含まれ、以後、ヨーロッパ、アジア、オセアニアを含む20回の海外公演の実施にあたり、多くの委嘱作品を海外に披露する機会が増えました。さらに、海外公演で共演した演奏家やマネジメントとのつながりを深め、海外からの独自の招聘も増え、OEKの国際的な活動が一層充実しました。

2007年、井上道義氏がOEKの監督に就任し、まもなく「ラ・フォル・ジュルネ金沢」の開催に取り組むこととなります。この音楽祭はOEKの国際的な認知度を高め、フランス、ドイツの音楽祭へも招聘される

ようになりました。また、2009年にはマルク・ミンコフスキ氏率いるルーヴル宮音楽隊の招聘を急遽担うこととなり、以後、OEKはミンコフスキ氏との共演を重ね、2018年、3代目の監督として招聘することとなります。彼は当時ボルドー国立歌劇場の総監督を務めており、ドビュッシーのオペラ『ペレアスとメリザンド』の共同制作を提案し、OEKとともに日本公演を実施しました。こうした活動を通じて、OEKはさらに国際的なつながりを深め、海外との関係が益々強化されました。

2022年、広上淳一氏が4代目の監督（アーティスティック・リーダー）として就任しました。広上氏は「地元の信頼を得、海外への挑戦を」という考えのもと、地域へのオーケストラ普及活動に積極的に取り組んでいます。OEKの国際的な活動は今後さらに進展し、21回目の海外公演への取組みも期待されています。広上氏の指導のもと、OEKは岩城氏が掲げた3つの柱をさらに発展させ、国際的な存在感を高め続けます。

OEKは、岩城、井上、ミンコフスキ、広上という4人の監督によって、異なる顔を与えられ、成長を遂げてきました。岩城氏の基盤の上に、井上氏は音楽的な深みを加え、ミンコフスキ氏が新しい音楽の風を吹き込み、広上氏は多彩な活動を取り入れることで、OEKはその音楽的な幅を広げ、国際的に評価されるオーケストラに成長してきました。歴代監督との取組みは、単なる演奏活動にとどまらず、日本と世界を結ぶ架け橋として、OEKを国際的な音楽シーンで活躍する存在に押し上げました。今後もOEKは、新たな冒険を続けるための力強い柱を持ち、未来に向かってさらなる飛躍を遂げていきます。



左から井上道義、マルク・ミンコフスキ、広上淳一  
2024.3.18 サントリーホールにて（写真提供：OEK）

## ご支援いただいている団体・企業

### 団体

(一社) 日本建設業連合会

石油連盟

(一社) 日本鉄鋼連盟

### 企業

朝日生命保険(相)

旭化成(株)

アサヒグループホールディングス(株)

岩谷産業(株)

A N Aホールディングス(株)

E N E O Sホールディングス(株)

(公財) オリックス宮内財団

王子ホールディングス(株)

(株)河合楽器製作所

キッコーマン(株)

キャノン(株)

キャノンマーケティングジャパン(株)

K D D I(株)

三機工業(株)

清水建設(株)

信越化学工業(株)

住友化学(株)

住友商事(株)

住友生命保険(相)

住友林業(株)

セイコーグループ(株)

積水化学工業(株)

損害保険ジャパン(株)

(株)大和証券グループ本社

第一生命ホールディングス(株)

大成建設(株)

中外製薬(株)

(株)電通

トヨタ自動車(株)

東京海上日動火災保険(株)

東京ガス(株)

東レ(株)

(一財) 凸版印刷三幸会

(株)日新

(株)日清製粉グループ本社

日本ガイシ(株)

日本製紙(株)

日本製鉄(株)

日本生命保険(相)

野村ホールディングス(株)

浜松ホトニクス(株)

(株)日立製作所

東日本旅客鉄道(株)

(株)フジテレビジョン

富士通(株)

本田技研工業(株)

前田建設工業(株)

丸紅(株)

三井住友海上火災保険(株)

三井不動産(株)

三菱重工業(株)

三菱地所(株)

三菱電機(株)

三菱マテリアル(株)

明治安田生命保険(相)

(株)ヤマハミュージックジャパン

ユニ・チャーム(株)

(株)龍角散

ローム(株)

## 編集だより

□当財団の理事を務める大谷康子さんが1月10日、サントリーホールで「デビュー50周年記念特別コンサート」を開催しました。8歳のときにスズキ・メソードのテン・チルドレンの一員としてアメリカ各地で演奏した経験から、「音楽の力で世界を平和にしたい」が信条に。60周年記念コンサートのときには、ウクライナや中東から戦火が消え、平和な日常が戻ってきていることを願わざるをえません。

□巻頭言は指揮者の山下一史さんをお願いしました。山下さんといえば、1986年秋のベルリン芸術週間の折、急病のカラヤンに代わってベルリン・フィルを指揮し、その第九演奏が大喝采を浴びたことで知られています。昨年8月6日の広島原爆の日には、被爆されたお母さまの手記をもとに制作されたNHKのラジオ番組「母の願い 未来へつなぐタクト～指揮者山下一史のヒロシマ～」が放送され、話題となりました。

□演奏家ではピアニストの務川慧悟さんが執筆。福田廉之介さん(ヴァイオリン)、郷古廉さん(ヴァイオリン)、坂入健司郎さん(指揮)、佐藤晴真さん(チェロ)につづく、若手音楽家による寄稿です。紙幅の関係ではじめの原稿に大幅に手を入れることになりましたが、味わい深い文章を寄せてくれました。

各地の音楽事情については、鯖江の廣比知徳さんをお願いしました。廣比さん自身も長年地元で音楽の指導に当たってこられました。今回は音楽活動のみならず、鯖江の魅力を多面的にご紹介いただきました。

□プロオケでは、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)の床坊剛さんにご登場願ひ、岩城宏之、井上道義、マルク・ミンコフスキ、広上淳一といった歴代音楽監督の想いやOEKの活動をご紹介いただきました。OEKと当財団は4月5日に内灘、翌6日に珠洲で地震と豪雨からの「復興応援コンサート」を開催する予定となっています。

アマオケでは、びわ湖≡オーストリア・ブルックナー管弦楽団(BABO)の宅間司さんにご執筆いただきました。琵琶湖とオーストリアと一体どんな関係があるのか?ぜひ本文をご一読ください。

□作曲家の間宮芳生(まみやみちお)先生が昨年12月にお亡くなりになりました。95歳でした。当財団では、作曲賞の選考委員(1985年～2009年)や評議員(1989年9月～2009年5月)などを務め、現代音楽の創作や若い作曲家の発掘・育成にご尽力くださいました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

□2025年3月1日現在の理事、監事、評議員、顧問は次のとおりです。理事:会長 日比野隆司、専務理事 久保田政一、大谷康子、三枝成彰、高松則雄、平山知行(新任)、林寛爾、監事:岸本政昭、藤原清明、評議員:海老澤敏、小宮山淳、佐沢英紀、寺西基之、津村良和(新任)、根本勝則、堀正文、顧問:岩沙弘道、榊原定征、早川茂、原良也(敬称略・順不同)。

## 公益財団法人 日本交響楽振興財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-9-3

電話 03-3253-2032 FAX 03-3253-0566

編集・発行人 林寛爾

E-mail nihon@symphony.or.jp

URL https://www.symphony.or.jp

2025年3月3日発行